

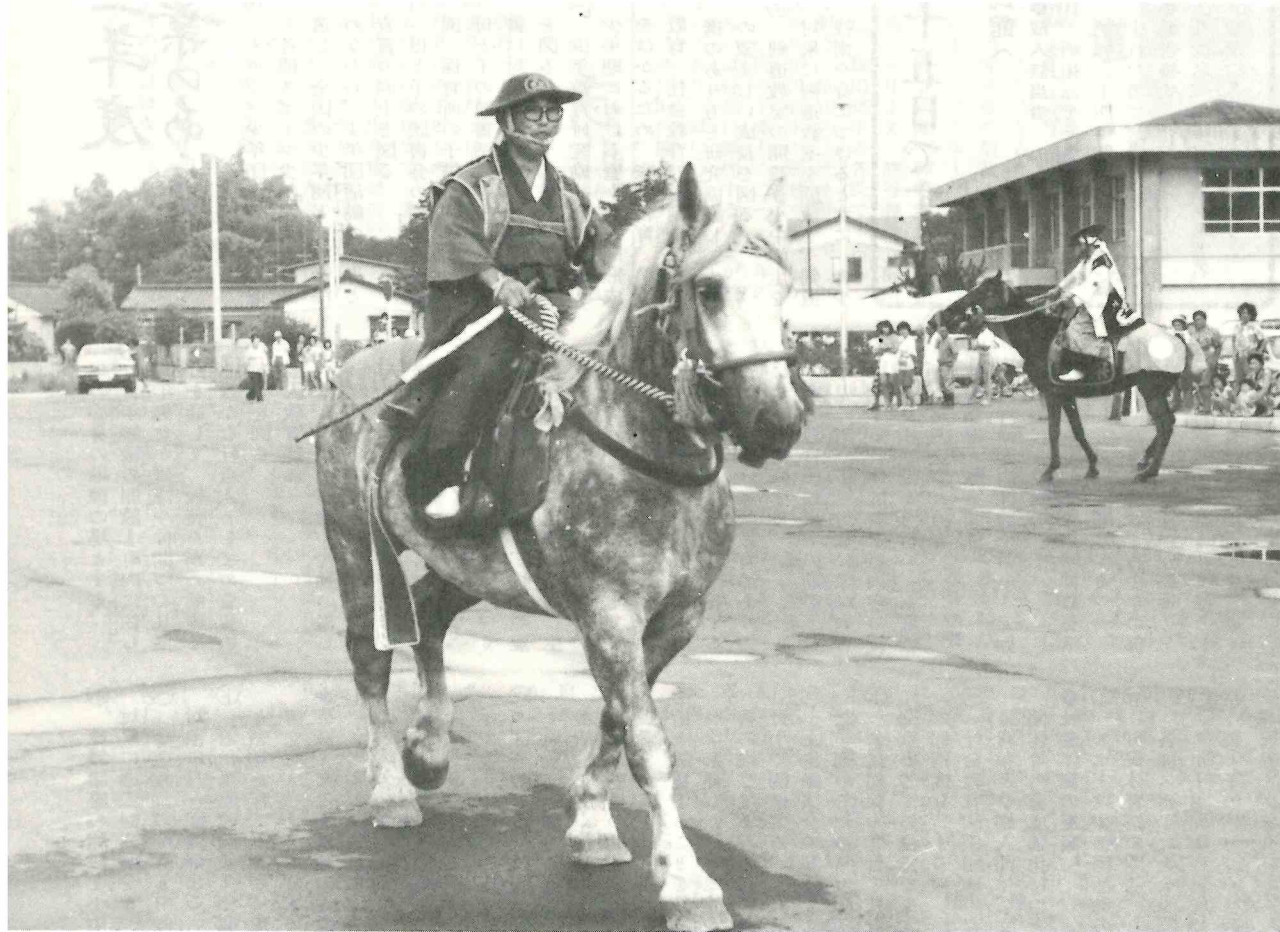
館報

おおくま

おもな内容

- 2面……公民館事業のあらまし
- 3面……スポーツ少年団に育成会が誕生
- 4面……スポーツ事業のお知らせ
- 5面……地域ぐるみの少年教育を
- 6面……教職員のあいさつ・俳句
- 7・8面……みんなの広場

発行編集 大熊町公民館
印刷所 新栄社写真美術印刷



勇壮!
大熊町騎馬隊

へ相馬流れ山

なごいたかゞまれ

五月中の申

お野馬追

相馬の祭りといえは

お野馬追に限っている

大熊町は旧相馬藩の

最南端の地でもある

野馬追祭りが

国の無形文化財に指定された

その区域は大熊町以北だ

今年から大熊町に騎馬隊が誕生

野馬追祭に参加する

戦後二十余年

姿を消していた騎馬武者の姿が

大熊町にも見られるようになった

いまの子供は「馬」を知らない

「騎馬武者」も見ることがない

騎馬隊の誕生は

子供たちのためにも

いままで地域の文化を支えてきた

ひとびとのためにも

嬉しいことである

この騎馬隊の成長を

地域文化の発展を

静かに祈りたいものである

(七月二十三日騎馬隊の出陣
大熊町役場前にて)

公民館

昭和五十三年度
重点事業のあらまし

昭和五十三年度福島県教育委員会並びに大熊町教育委員会重点施策に基づき、豊かな教養と正しい判断力を持つ人間、個人の価値感を尊ぶ人間、健康な人間の育成を最大の目標として、生涯の各時期における住民の要求課題と必要課題に対応し得る態勢を整備、生涯教育の推進にあたる方針である。それがため次の事業を実施する。

◆青少年教育関係
① スポーツ少年団リーダーの育成
スポーツ少年団野外研修会の開催
◆成人教育関係
① 家庭教育相談事業の開設
② 公民館報の発行
③ 公民館報の発行
④ 公民館報の発行

① 八月十五日は、大熊町の成人式です。各部落の区長さんを通して、成人式への参加者を調査いたしました。報告もれの方は、至急大熊町公民館へお知らせ下さい。

成人式は八月十五日です
報告もれの方は
至急公民館へ

◆成人該当者
昭和三十三年四月二日から昭和三十四年四月一日までに生れた者で、当日出席する方。

◆報告様式
氏名、生年月日、保護者名、住所(番地まで)を報告する。

② スポーツ少年団大会への派遣
各種スポーツ少年団大会へ派遣し、全国の少年団と交流を深めながら、少年団活動の推進と資質の向上を図る。

③ 母と子の読書会の開催
幼稚園、保育所の子供を主体とし、母と子の読書活動を推進し、読書に対する感心を高め普及拡大を図る。

④ 少年教育研究協議会の開催
少年期における豊かな人間形成をはかるため、家庭教育、学校教育、社会教育の役割と相互連携のあり方を研究協議し、少年の望ましい成長を図る。

⑤ 剣道教室の開設
小中学生を対象に剣道教室を開設し、剣道技術を身につけると共に、青少年の心身の健全育成を図る。

⑥ 珠算講座の開設
小中学生を対象に週二回開催する。
⑦ 華道教室の開設
町内婦人を対象に月一回開催する。
⑧ 着付講座の開設
和服姿の美と感覚を育てると共に着方の指導を行う。十一月開講の予定。

◆成人教育関係
① 婦人学級の開設
現代社会に対応するため、婦人生活のあり方について研修し、婦人の地位向上と明るい家庭、住みよい社会づくりに力を入れる。

② 高令者大学の開設
仲間づくりや学習活動を通じ、社会の変化や若い世代の理解を深め、生きる喜びを知る学級運営をすすめる。

③ 家庭教育学級の開設
社会の変化や家族の人間関係が、子供達の成長にどのように影響するか、望ましい家庭教育のあり方について研修する。

④ 家庭教育相談事業の開設
三才児の第一子を対象に家庭教育に関する具体的な学習内容の提供及び相談指導を行い、家庭教育の充実につとめる。

◆各種講座・教室関係
① 料理講座の開設
月一〜二回の実習により指導。
② 茶道講座の開設
精神修養講座として月三回開催する。
③ 書道講座の開設
青少年の部成人の部に分けて週一回開催する。

④ 民謡講座の開設
ふるさとの民謡を普及し、後世へ受け継ぐ月二回開催する。

⑤ 民謡講座の開設
ふるさとの民謡を普及し、後世へ受け継ぐ月二回開催する。

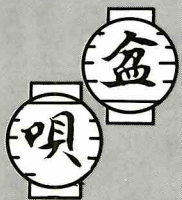
⑥ 家庭劇場の開催
優れた舞台芸術を公演し、家族ぐるみで芸術を鑑賞することを奨励し、豊かな家庭づくりと地域文化の振興に役立てる。十月二十二日大野小で開催する。

⑦ 文化講演会の開催
文化的教養を高めるため年一回開催する。
⑧ 公民館報の発行
社会教育機関紙としての役割を果たすため年六回程度発行する。

⑨ 社会教育関係団体の育成強化
青年及び婦人団体、文化関係団体等の育成強化につとめる。
⑩ スポーツ少年団活動の推進
町民体育祭の開催。
⑪ 各種スポーツ大会の開催
スポーツ団体の育成強化。
⑫ 親子の体力づくり教室の開催
十一月予定。

⑬ スポーツ傷害保険への加入促進
地域・職場等におけるスポーツ活動を振興するためスポーツ傷害保険への加入を進める。学級等について詳しく知りたい方は公民館へお尋ね下さい。

募集 中



四月発足した「正調諏訪太鼓を守る会」は、いま猛練習している。この太鼓の起源を探ると長野県諏訪の流れて野上に発祥して由来三百年余の歴史を刻んでいるという現在、大熊町を中心に南北三十軒に及ぶ共通のリズム感は、それを物語っている。高い格調を再現させたい、と一同張りきっているが、今夏の盆踊り行事などに披露する計画だという。

そこで守る会発足を記念して盆唄募集が、次の通り企画決定されたので公民館活動の一環としても支援することになりました。ふるって応募下さるようお待ちしています。

応募要領
① 盆唄 七・七・五



橘葉青年との交歓会

若人が集い

青年学級で研修

昭和五十三年度大熊町青年学級は、町内に住む二十五才までの青年男女を対象に三十余名の参加を得、開講した。ことしの計画は、研修や仲間づくり等の諸活動を通して、教養を高め、健康で心豊かな一人前の社会人としての資質の向上を図ることをねらいとしており、国や県の主催する各種研修会への参加、婦人学級生や他町村青年との交歓会の開催、スポーツ及びレク活動の実施、その他現地研修や講演を通し見聞を広める活動を実施する。

去る六月二十五日、二十六日には、いわき市のアスレチックスにおいて体力づくり教室を開催、終了後は橘葉町青年会との交歓会を実施、青年活動のあり方などについて有意義な話し合いが行われた。

スポーツ少年団に 育成会が誕生

今年度のPTA総会において大野小スポーツ少年団育成会が設立された。これは少年にスポーツの普及と奨励を図りながら、体力の増進と心身の健全育成をはかるのがねらいであり、大小の通学地区に在住する五年生以上の児童を持つ保護者並びに、この会に賛同する者をもって組織されている。

現在、大小スポーツ少年団員は八十二名で、毎週火・木曜日、午後四時から五時半まで、男子はソフトボール、女子はバスケットボールを行っている。また、五月二十七



スポーツ傷害保険の 加入はお済みですか

スポーツ活動中にケガをした場合の救済措置として、スポーツ安全協会傷害保険制度がありますがこの制度の詳細については前号でお知らせした通りであり、加入受付の締切が近づいております。未加入の団体は至急公民館で手続きされるようお知らせします。

日には、大小において川内第三小学校のスポーツ少年団とソフト、バスケットボールの親善大会が行われた。さらに試合終了後は体育館において交歓会がもたれ、和気あいあいのうちに楽しいひと時を過ごされた。なお、今年度の役員及び活動計画は次の通りです。

- | | |
|------|------|
| 監事 | 菅野祐一 |
| 古田一郎 | |
| 指導者 | 永野康明 |
| 八城 盛 | |
| 佐藤裕子 | |
- ◆活動計画
- 四月 育成会設立総会
 - 五月 親善競技大会及び交歓会
 - 七月 水泳教室
 - 八月 臨海学校
 - 九月 いもに会
 - 十月 親善球技大会(熊小)
 - 十一月 親善球技大会(川内)
 - 十二月 レクリエーション
 - 二月 親子球技大会
 - 三月 今年度の反省と来年度の計画立案

御 札

- 計二十六字
(例) ドーンとドントと
鳴る勢は何処か
アレハ野上の
諏訪の森
- ① 投稿 お一人何句でも可。ハガキその他で住所、氏名を忘れず。
 - ② 送付先 大熊町公民館まで
 - ③ 締切 八月五日
 - ④ 審査 審査員七名で厳選
 - ⑤ 発表 各地域主催で実演により披露、発表します。
 - ⑥ 賞 優秀特別賞 四点
応募者全員に参加賞

このほど熊二区の吉田信清さんより公民館図書室へたくさんの図書が寄贈されました。紙上を借りて厚く御礼を申し上げます。尚ご寄贈いただきました図書目録は次の通りです。

図書名	著者
事実と幻想	会田 雄次
日本人の知恵の構造	樋口 清之
文明の逆説	立花 隆
烙印の女たち	澤地 久枝
萌野	大岡 昇平
サクラの枝―日本に	フセブオロ
ついでに二十七章―	ド訳三木単
源氏	舟橋 聖一
物語 龍月夜かんの君	大原 富枝
建礼門院右京大夫	松浦 玲
勝海舟と幕末明治	江藤 淳
水川清話勝海舟	



青少年に明るいあすを!!

青少年健全育成

期間

7月1日～8月31日

県民総ぐるみ運動実施中

いつの時代にあっても、未来は青少年によって創造される。これら次代を担う青少年が健全に成長していくためには、青少年自身が自ら誇りと自覚をもって自らの努力を積み上げていくことが基本であると同時に、これを育成指導していくことはすべての大人の責任である。

この運動は、こうした認識のもとに、青少年が明日への期待をもって心身ともに健康な夏をすごせるよう関係機関、団体および県民すべてが積極的に協力しあうことで根ざした県民総ぐるみの運動をすすめるものである。

運動目標

明るい

社会環境をつくらう。

- ア、あいさつ運動を広げよう。
- イ、大人と子どもが話し合おう。
- ウ、環境美化運動をやろう。
- エ、遊び場や憩いの場をつくらう。
- オ、有害な雑誌、自動販売機などを追放しよう。

家族みんなで

明るい家庭をつくらう。

- ア、家庭を大切にしよう。
- イ、家族全員でスポーツや野外活動をしよう。
- ウ、各種スポーツ・レクリエーション事業に親子で参加しよう。
- エ、わが家の「家庭の日」の家庭計画をたて、実行しよう。
- オ、わが家の「夏休み中」の行事計画をたて、実行しよう。

カ、良い本に親しもう。

青少年の社会参加をすすめよう。

- ア、小さな親切の輪をひろげよう。
- イ、サークル・ボランティア活動によって自分達の主体性を確立しよう。
- ウ、団体・グループ活動を通じて明るい地域社会をつくらう。
- エ、青少年のために積極的に指導者になろう。
- オ、スポーツ用具をそろえよう。

青少年の非行をなくそう。

- ア、家庭の個室・アパート等が非行グループのたまり場化しないよう気をつけよう。

スポーツ関係行事のお知らせ

◆スポーツ少年団野外研修会

- キャンパス生活を通し少年団員相互の連帯感を養う。
- とき 七月二十五・二十六日
- ところ 熊川海岸キャンプ場
- 対象者 小学五・六年生
中学一・二年生

◆県総体スポーツ少年団大会

- 相双地区代表はソフトボールの部に大小スポーツ少年団チーム(永野康明監督ほか選手十五名)が参加する。
- とき 八月五・六日
- ところ 須賀川第一小学校

◆日本スポーツ少年団中央リーダーズスクール

- とき 八月十六日～十九日
- ところ 岐阜県土岐少年自然の家
- 参加者 石橋利広(熊二区)

◆県総合体育大会(相双地区大会)

- とき 八月二十七日
- ところ
- 家庭バレーボール 小高町
- 壮年ソフトボール 小高町
- 卓球 双葉町
- 軟式庭球 浪江町

◆東北ブロックスポーツ少年大会

- 東北各県のスポーツ少年団が一堂に会し、交歓研修を通してリーダーとしての資質向上をはかるのをねらいとし、県代表二十数名の一員として、大熊町から次の方々が参加する。

◆町民体育祭

- 町民の体育の祭りでもある町民体育祭は例年の通り九月第一日曜日に実施する予定である。
- とき 九月三日
- ところ 大熊町中学校々庭

イ、幼児期から正しい買物の仕方を教えよう。

ウ、万引きを発見したときは、直ちに保護者、学校等へ連絡しよう。

エ、未成年者には、酒やタバコを売らないようにしよう。

オ、青少年の心身発達に応じ、健全な雰囲気の中で正しい男女交際をするよう指導しよう。

カ、無断外泊のないよう気をつけよう。

キ、シンナー、接着剤を青少年に売らないようにしよう。

ク、青少年との心の触れ合いを大切にし、その悩みに積極的に相談にのろう。

子どもを事故から守ろう。

- ケ、無謀な運転をしないよう注意指導しよう。
- ア、安全な遊び場を確保しよう。
- イ、危険な個所に行かないよう注意指導しよう。
- ウ、家庭における交通安全教育を徹底しよう。
- エ、水の事故について充分注意しよう。
- オ、花火をするとき充分注意し、事故のないよう気をつけよう。
- カ、花火を売る場合は正しい使用方法を教えよう。

地域ぐるみの 少年教育をめぐって

—青少年教育研究協議会開催—



農繁期の一段落した五月三十日、大熊町公民館において、少年教育研究協議会が開催された。次代を担う少年をどう育てあげようかと研究意欲に燃えた相双二郡の各市町村青少年教育担当者及び父兄等約二〇〇人が集り、一日中熱心に討議された。午前は県青少年会館長になられた佐藤利三郎先生を講師に迎え、「地域における少年団体活動を育成するために」と題し、青少年育成条例の制定について並びに青少年団体活動を通して、少年達の健全育成を図るにはどうしたらよいか等、先生自らの体験を通して実践活動を具体的に話され、次代の青少年にかけた情熱に一同

感銘いたしました。なお、青少年の育成について理解をいただくために、研究協議会における要点を紹介いたします。

① 青少年の健全育成条例の制定について

青少年の非行の流れをふりかえってみると、第一期（終戦後の自暴自棄時代）第二期（昭和三十一年頃始めて民主教育をうけた子が青年期に達し、大人との断絶時代）第三期（現代で青少年の非行がピークとも言われている）と刑法犯少年がここ数年増加の傾向にあり、非行の指数も四十二年の二倍半になっている。万引、窃盗、シンナー遊び、怠学、喫煙、飲酒、暴走等の不良行為が多く、犯罪の八割を学生が占め、その内七、四％が女子であり、性犯罪にも及びしかも、低年令化の傾向にある。雑誌等の自動販売機も宮城、栃木県で規制されたため、本県に業者が入り三倍にも急増し、青少年をとりまく環境を条例で規制せざるを得なくなった。このため三月に県青少年健全育成条例が制定され十月実施の段階となっている。

② 家庭における基本的躾の欠如

③ 親の過保護

④ 個人中心的な社会の風潮

⑤ 学力不振

⑥ 教育行政上の根深い問題等

⑦ 少年達の人間形成の場と配慮

⑧ 学校生活の場……教育的配慮の上になたてられた知育中心の場ではなくてはならない。規律等も培われるのですが、少し厳しくすると父兄が学校に問題をもちかけたり知育中心が点とり虫となり友達が出来れば、自分の順位が上がる等、友情の欠けた子が出る。そういうことがないよう。

⑨ 家庭教育の場……血のつながりと云う愛情で結ばれ躾を中心とした徳育の場ではなければならない。善悪の判断、金の有り難さ、働くことの尊さ。日常のあいさつ、思いやりの心等が培われる場でありたい。

⑩ 社会生活の場……何ら教育的配慮がなく自分自らの力で生き抜く場で、少年団体活動の中で共にみがき、友情、社会ルールを身につけながら、自分に打ちかつ根性の養われる場でありたい。

以上三つの生活の場の配慮の上には少年は育成されていくのではないでしようか。

⑪ 分科会討議の中から

⑫ 少年団体活動中の安全対策に對する処置について

これは、自主的活動団体ですのでスポーツ障害保険の加入によって指導者も入り安心して行うこと飯館村では、全戸加入を呼びかけ安全対策をはかっている。

⑬ 自主的活動を活発にするには

スポーツ少年団等の巾広いすぐれた特性を生かし役割分担や、後輩を指導するジュニアリーダーの養成等、その他育成会等と連絡をとりながら自主的方向へと導くことが大切である。

⑭ 行政、家庭、学校、地域社会との相互連携をどのようににかかると。熊小の緑の少年団、公民館で指導しているスポーツ少年団、剣道スポーツ少年団等、ボランティア指導者に協力を頂いている。

まとめとしての助言指導

助言者の県社会教育課の金田先生からは、如何なる姿の育成会でも子供会でも最終の目的は、子供の健全育成にあるのだ。教育とは子供を大人にすることではなく、如何に子供を子供らしく育てるかにある。我が子から我々の子、地域の子と云う気持ちで接してほしい。最後に少年の声をと、三つの詩を紹介していただいた。子供に映った家庭の姿、子供なりに親を思う無言の愛情、何かジーンときせられ余韻を残しながら閉会となった。

父ちゃんのイボ

（農村の小一年生）

父ちゃんと風呂に入ったら父ちゃんの背中にいぼがあった。そのいぼなんしただと聞いたら働きたいと云った。どうゆう意味よときいたら、いぼえ働いてるから出来るんだと教えてくれた。やっぱりおれの父ちゃんは働き過ぎだ。

やめろ

（小五年生の坊主）

父ちゃんと母ちゃんは時々けんかをする。何かあるとききまって二人の意見がわかる。激しい口喧嘩、ぼくや妹にも話してくれない。どうしたとききても何でもねえとそっぽを向いてしまう。その時計でさされるようだ。どっちもいいか、どっちが悪いか、どっちも可愛そうだと思えてくる。大声でやめろといいたくなる。だがぼくにはその勇気がない。四、五日の間、父ちゃんも母ちゃんもいぼりする。父ちゃんも母ちゃんもよく話し合っしてほしい。ぼくが泣きたくなる程心配しているんだから。誰もいないところでやめろ、やめろ、大きな声でぼくはこう云った。ぼくはとってまさびしい。

お母ちゃん

（小四年生の女の子）

よいしょよいしょ杖をついて歩いていく。半身不随のお母ちゃん、大通りでも旧道でもじろじろ見られる。振り返ってみる人もいる。下の方からずーと見つめる人もいる。たんぜんの右肩には大きなつぎはぎもある。でもお母ちゃんは知らぬふりをして歩いていく。だけどほんとうははづかしいんだと私は思う。こんなみじめなお母ちゃんでも私を育ててくれたお母ちゃん、でも世界の只一人のお母ちゃんだ。

豊かな人間性の 育成を目ざして

大野小学校長 古田 一郎

造り上げてくださった方々のご労苦と、その業績に対し、心から感謝を申しあげるとともに、全職員協力して、明るく、清く、なごやかに、そして秩序ある学校づくりをもつとくに、豊かな人間性の育

成を目指す教育に精進する覚悟でございます。
わたしたちは、教育をよくし、よい学校をつくり、よい時代をつくり出していく歴史的使命を担っていることを自覚し、皆様方と共に、子どもの教育に真剣に意欲を燃やしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いしてごあいさついたします。

誠実さを育む

大熊中学校教頭 松本 英治

松林に囲まれた鉄筋校舎が私たちに迎えてくれます。

早いもので本校に赴任して三ヶ月余になります。実質統合四年且職員と生徒が一体となって新しい伝統づくりに励む姿に敬服しています。

本校生徒から受けた第一印象は言葉使いのいいねいさと礼儀正しさでした。こうした純朴さ、誠実

子ども達とともに

熊町小学校教頭 深野 英男

大熊町は教職三十年余に亘る勤務中始めての町であります。浪江管内は大部歩きましたし隣の双葉中、双葉南小にも居りました。

大熊町については旧制双葉中学校時代旧飛行場作りの勤労奉仕作業が印象的です。その他果物の産地とか、近年の東京電力は、勿論見学しましたが、私達が青年時

代によく健斗された熊町青年会の陸上競技の強さが思い出されます。その伝統は今尚大熊町青年会に継承され郡内は勿論県内にも覇をとなしているものと思いい強く感じます。
熊町小学校に入った瞬間から校舎環境のすばらしさ、純真な子ども達に接し、相馬より地元双葉に帰った懐かしさ、嬉しさと共に、この子ども達と一緒に心身共に正々堂々、『日に日に新らた』を求めて精進したいと思っております。

さを大切に育んでいきたいと思えます。
現在の学校教育の課題は「確かな学力」と「たくましい体力」「豊かな心」を身につけさせることに つきます。そのため、先生方と心を一つにして努力していきたいと念じております。
転任の際、先輩が私にはなむけとした言葉「一校入魂」を座右の銘として、微力ではありますが、学校長を補佐して学校経営の一助となりたく願っております。

家庭バレーは駅前

ソフトは下野上が優勝

町民体育祭採点種目のひとつである家庭バレーボール並びに壮年ソフトボール大会は、七月二十三日大熊中において選手、役員等が多数参加し、にぎやかに開催された。なお成績は次の通りです。

家庭バレーボール

- 優勝 駅前チーム
 - 準優勝 熊チーム
 - 三位 町チーム
- # 壮年ソフトボール
- 優勝 下野上チーム
 - 準優勝 駅前チーム
 - 三位 大川原チーム
 - 熊チーム



佐久間 信子

父は喜寿母七十の桜もち
梅の花あと味のよき話なり
菅野 ミヨ

春雷に早ねの夢の破れけり
落のとう足もとにしてとびとびに
一戸 多磨子

鶯の声に満たされ春菜摘む
たねまきの農婦手さばき踊ること
千葉 公平

朝顔に紫の濃き日向あり
冬波や一きわ光る鴨のあり
結城 千代

其所や此所花芽こそりぬ雨上り
浅き春雨がいつしか雪となり
猪井 静枝

雪時雨お地蔵さまに石積みぬ
日向ぼこ孫に白髪を抜かれけり
永井 善子

春雨やハシカの孫の髪を撫す
みぞれ降る卒園式の母子かな
鎌田 光子

雪の峰薄紫に明け初めし
月光のそぞける梅の影かなし
中山 安子

風邪に臥し一つ音あり古時計
看護婦の笑みやわらかし寒の明
渡辺 政美

早苗田に今日より暮るる山の影
替衣ふところに手の落付かず
高野 昭二

母子寮の子ら花火焚く筑波背に
母子寮より花火の走る筑波まで





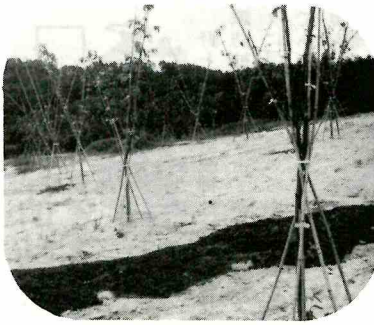
自立専業への道

梨づくりにも励む若者たち

現在農家を取り巻く情勢は楽観出来ません。米作りは減反等で深刻であり、畜産農家は飼料や、肉の輸入で問題があり、果樹農家はオレンジ、サクランボ等の輸入で、今後の農家経営には少なからず不安があるかと思う。

この様な時勢の中で、大熊名産の梨作りに情熱を注いでいる若いグループがある。

この若者達と経営を紹介してみよう。現在大熊町で進められている第二次農業構造改善事業の一環として、大野駅の西北、鈴内地区に山林を開墾して、10haの立派な(と言っても緩傾斜で、多少石や岩がある)畑が昨年出来上がり、こ



こに八人の侍ならぬ、八人の若人が、当地名産の梨栽培に取りくんでいる。このグループは、門馬正義、小野寺六郎、仲野孝男、古山一男、永井正文、熊谷義雄、前田克己、鎌田修平の各氏で、古山、小野寺、前田の三氏を除いて、20代から30代前半の若者です。しかし、三氏の子弟もここに、二年のうちには経営に参加することが確定しており、誠に心強い限りである。この10haの園地は共同経営で

はないが、お互いが連携プレーで和気藹々と作業をし、栽培上の会合を重ねており、将来の成功間違いなしの感を受ける。若人のほとんどは、既に栽培を手がけておりこの団地での面積をプラスすると、少ない人でも1.8ha以上となり、将来は自立専業農家として自活出来る様基盤づくりに励んでいる。植栽は2月に完了、幼木が整然と並んでいる。品種は、現在消費者に最も人気のある幸水90%、豊水10%である。今秋には総予算一七〇〇万円が計画されている。また各地で騒がれている鳥害予防も考慮に入れて、防鳥網設備も組込まれている。昭和60年には成園となり、糖度の高い、美味しい梨を皆さんに賞味して貰える様八人の若人は頑張っている。

忘れられつつあるふるさとのおうた

四月二十九日の天皇誕生日から始まり、五月三日の憲法記念日、五月五日の子どもの日の祝い、五月七日の日曜日まで、テレビも新聞も行楽の出入を報じている。こんななぎやかな休日にかくれ去られようとしているのが、この頃八十八夜と立夏という季節的な行事である。

私たちが子どもの頃は、三日や五日の祝日はなかったかわりに、この季節になると、

この鈴内団地は景観に恵まれている。周囲は山林で、園地は南向きで暖かく、東には太平洋と東電が一望でき、目前には鈴内の溜池が群青に近い色で、太公望を築かせている。大野の街からわずか1km以下でこんな清閑で眺望できる処があることを知っている人は以外に少ない。子供連れで散歩するには最適かと思う。皆さんの支援と、八人の若人の情熱と努力に期待したいと思う。

野馬形 鎌田清衛

ちよつと一言

言いたいことをズバズバ言える人は考えようによっては、本当に幸福かも知れない。しかし周囲の人たちにとってはどうだろうか。また自分のしたいことだけを考

たものである。そして人間関係や自然のほのぼのとした心のあたたかさを味わったものである。

メーデー歌が町角に流れ、ピンクレディーのUFOが子どもの愛唱歌となつているこの頃、時代や世相の違いとは言い、やはり心のうらおいや、にじみでるあたたかさを感じとる茶つみや背くらべ、鯉のぼりの歌などを歌わせたいと思う。

日本人の心の歌として、子どもらしい自然に口ずさみのできる歌をいつまでもいつまでも歌わせたい。日本人としての心のうらおいを子どもの頃から身につけてやりたい。

大川原 一老人

え行動に出ることも、どうしたものでしょうか。

この頃、青少年たちが、やたらに相手をにくしみ合い、暴力沙汰を起こしたり、簡単に自殺をしたりする事件が多いが、私たち年寄りには、何としたものかと考えさせられる。

私たちが育つた時代は、不言実行という何事にも実践力が尊ばれた時代だった。意見などあまり聞いてもらえなかつたように思う。

しかし現今では、意見も思うまま言えるし、それをとり上げてもらえる自由もあり、話し合いによって解決できる住みよい時代である。しかしこの話し合いも、冷静な思慮や判断でなされなければならぬ。私もかつては、思うよう意見を見聞いてもらわれなかつたり、相手に誤解されそうになつたりした時には、言い争いもした。そして、売りことばに買いことばも発したりもした。しかし年をとつてみて、相手の言うことに腹が立つた時、だまって、一・二分腹の虫をおさえることにした。たつた一・二分でも時がたつと、自然に相手も静かになり、自分にも冷静さが加わつてきて、よい話し合いができるようだ。

若い人たちよ、いやどんな人たちも、腹が立つた時には、このとしよりの苦言を思い出し、だまって一・二分腹の虫がまんくらべをしてみようではないか。

大川原 一老人

奉仕活動で町をきれいに

宮渡神社の清掃

野上老人クラブ

野上二区の宮渡神社は、旧村社諏訪神社と共に古くから地元の人々に信仰されている由緒あるお宮である。近頃は参詣する人も少く境内は荒れるに任せられた状態であった。これに気づいた野上老人クラブ(吉田正雄会長他会員三十名)の方々は、先般、同クラブの奉仕作業として、境内の清掃を行い、雑草や枯木をとり除き参道の石段の修復等に終日汗を流して奉仕した。おかげで境内は見違えるように立派になり地元の人々から感謝されている。

草花と公共施設へ

熊二区生活改善グループ

熊二区生活改善グループでは、毎年春になると、町内を花で飾る



お盆も近くなり、遠くふるさとを離れている方々が、田舎に帰ってくる季節です。そこで、大熊町の玄関でもある、大野駅周辺を美しくしようとして、大熊町青年学級生(学級長 田村久他二十名)が、去る十六日大野駅周辺の草刈りやゴミ等の清掃奉仕が行われた。

駅前ときれいに

大熊町青年学級

青年会(松永秀篤会長他三十名)では川や海をきれいにしようとして、落合橋近くに不法投棄されたゴミの回収作業を行った。また、熊川海水浴場には、ゴミ箱の設置や海をきれいにしようと看板を立てられた。

熊川キャンプ場の清掃

青大熊青年会

つじ並木の除草
昨年開通した大熊町役場前の道路は、両端につじが植えられ、立派なつじ並木となっている。このつじが、すくすくと育つようにとの願いを込め、過般下野上五区の老人クラブ(会長 河西秀治)では会員皆んなで草むしりの奉仕作業が行われた。老人の方々の奉仕の精神に感謝すると共に町民みなでつじの立派な成長を見守りたいと思う。

思い出



私が熊町幼稚園のPTA会長を仰せつかった当時、一番気になった事は、園舎のオンボロだった事である。一日も早く新しい園舎を何とかしなければと思った。そして色々情報を集めているうち、熊町幼稚園は、三年後にしか建たないことを知った。しかし、自分でガリ版印刷し、役員との協力を得、陳情した覚えがある。ある人に「頑張ってくれ!! 君達のような若い者の姿勢が町の発展に必要なのだから...」と云われた時、責任の重さを感じた。今では、関係者の努力により、東北一の新園舎が出来あがったのである。去る三月の卒園式の日、私は新園舎の職員室で、去来する日々を浮き雲の中に思い起こし、

中山貞夫(夫沢)

編集後記

◆風鈴の音もハタと止んで扇風機の風もなま温く感じられるこの頃の暑さです。地方気象台始まって以来の最高気温を記録した地方もだいぶあるとか。読者各位にはいかがお過ごしですか、暑中お見舞い申し上げます。

◆館報も一〇〇号の発刊を終わってよいよ二〇〇号へ向ってのスタートです。新しい表紙で企画発行することになり題字は井戸川碧水先生にお願いしました。館報一〇一号にふさわしい風格のある題字であることを確信すると共に相変らずのご愛読をお願いいたします。

◆館報一〇一号がみなさんに届く頃はお盆になると思います。正しくは「孟蘭盆」で、辞書をひいてみたら「孟蘭」とは地獄でさかさまにぶら下げられる苦しみを解く意の梵語。七月十五日にする仏教の行事。いろいろの食べものを盆に供えて冥土における祖先の苦を救おうとするもの。と記されている。

◆ねんごろに先祖の霊をとむらい先祖の残された日本の美德と国土をしっかりと守りぬきたいものである。

